



PRESS RELEASE

2019年1月24日  
株式会社オギノ

## オギノ、山梨県と水素エネルギー社会の 実証研究に関する基本合意を締結

全国で初めての地産地消のメガワット級 Power to Gas システムに参画

株式会社オギノ（本社：山梨県甲府市、代表取締役社長：荻野 寛二、以下「オギノ」という）と、山梨県（県庁：山梨県甲府市、知事：長崎 幸太郎）は、CO<sub>2</sub>フリーの水素エネルギー社会実現に向け、P2G (Power to Gas) システムの実証研究における水素利用と普及啓発について、相互に連携し、取り組むことに合意しました。オギノは、商業施設としては全国で初めてとなる、メガワット級の P2G システムによる水素を使用する純水素燃料電池を導入し、店舗で使用する電力の環境負荷の低減や水素エネルギー社会構築に向けた普及啓発に取り組みます。

P2G システムは、再生可能エネルギーの電力により水を電気分解することで水素を製造し、貯蔵及び利用する技術です。太陽光エネルギーなどの再生可能エネルギーは、天候等で発電量が左右されるため、安定供給が課題でした。しかし、今回導入する P2G システムは、再生可能エネルギーの電力から水素を製造し貯蔵するものであるため、さらなる再生可能エネルギーの安定化を図ることが可能です。

P2G システムにより製造される水素は、水を電気分解することで製造でき、CO<sub>2</sub>も発生させません。そのため、従来の化石燃料に代替できる可能性があり、CO<sub>2</sub>の削減にも寄与します。

この度、オギノと山梨県は連携し、オギノが運営するオギノ向町店（山梨県甲府市）において、P2G システムを利用した水素供給の実証研究を行います。水素を貯蔵した「水素カードル」と、水素の供給により電気を製造する「純水素燃料電池」を店舗後方に設置し、安定的な電力を供給します。これにより、オギノは従来の発電システムよりも環境負荷が低い電力の利用を促進します。

山梨県は、2019年3月に、「やまなし水素エネルギー社会実現ロードマップ」を策定し、県民生活や産業活動等で日常的に水素を利活用する水素エネルギー社会の実現を目指しています。ロードマップにおける水素サプライチェーン構築の一環として、山梨県と東京電力ホールディングス(株)の共同事業である米倉山太陽光発電所（山梨県甲府市下向山町）で発電された電力を使い、隣接する米倉山電力貯蔵技術研究サイトの1.5MWの大型スタック評価設備にて水素を製造し、その後同地に所在する一般社団法人水素供給利用技術協会(HySUT)の水素技術センターの近傍に建設する高圧水素の出荷設備で水素を圧縮し、水素カードルに充填します。

この一連の事業は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託事業として進められているものです。

オギノは、地域密着型の小売業として、資源循環型の持続可能な社会、自然と共存できる社会を目指し、「美しい山梨を次世代に引き継ぎたい」という環境方針のもと、様々な環境活動を行っています。山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会に参加し、来店するお客様にマイバッグの利用を促進しています。2018年の食品関連売場でのマイバッグ持参率は86.9%でした。レジ袋1枚5円で販売し、この収益金額を「富士山の森づくり」に活用しています。2013年にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）より世界文化遺産に登録された富士山を保全する為、2014年より計6回、「富士山の森づくり」として、世界文化遺産の構成資産エリアで植栽活動を実施しました。さらに、店頭ペットボトル、トレイ、缶、瓶、古紙などのリサイクルボックスを設置し、リサイクル活動にも注力しています。オギノは、今後も地域社会を支える小売業として、環境に配慮した活動を継続的にを行います。

以上

#### 【基本合意締結式の概要】

日時： 2020年1月24日（金） 13:00～  
場所： 山梨県庁 山梨県甲府市丸の内1-6-1  
参加者： 株式会社オギノ 代表取締役社長 荻野 寛二  
株式会社日立パワーデバイス 製造本部 山梨製造部 部長 鈴木 悟  
山梨県知事 長崎 幸太郎

#### 【水素発電設備の設置店舗】

店舗名： オギノ向町店  
住所： 山梨県甲府市向町店121-1  
運用開始時期： 令和2年度内の予定  
発電電力： 10kW

